

## やっぱり平和

後藤 聡

奨励者紹介[ごとう・さとし]

日本キリスト教団梅花教会牧師

主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。

彼らは剣を打ち直して鋤とし

槍を打ち直して鎌とする。

国は国に向かって剣を上げず

もはや戦うことを学ばない。

(イザヤ書 2章4節)

### はじめに

皆さんは、ケンカをしますか。ケンカをしたことがありますか。親子や兄弟姉妹で、あるいは友人とケンカするでしょうか。どんな理由でケンカになるのでしょうか。何かのことで意見を異にする、単にムシの居所が悪かった、いろいろ原因はあるかもしれませんが。口で、言葉で言い合う、手が出てしまうこともあるかもしれませんが。

1980年代の後半から、私は保育園のある教会に赴任しました。自由遊びの時間をたっぷり取った、音楽のあふれる保育園でした。それでも、たまに子ども同士でケンカになることがあります。最初は言葉で、次に手が、次には棒や箒を持って、とエスカレートしていき、砂や石を投げたりすることもあったかもしれませんが。大人だとケンカの理由は複雑ですし、石からナイフや拳銃が出てくること、もっと強力な武器でということもあるでしょう。仲間を連れて集団でのケンカ、これではいつまでも続きます。誰かが中に入ったりして止めて終わらせなければ際限がありません。

### イザヤの時代

イザヤ(第一イザヤと呼ばれる)は紀元前8世紀前半にエルサレムで40年間活動した預言者(預言は神の言葉を預かり神に代わって語る者、予言ではない)です。ダビデ、ソロモンと続いた王国は、3代目には、国は南北に分裂します。パレスティナは、北はアッシリアに、西はエジプトに、東はバビロンに囲まれています。軍事的に、政治的にいえば大きい国が小さい国を脅かしている構図ですが、聖書的にいえば、人々が天地創造・全知全能の主なる神から離れ、偶像崇拜、神でないものを神とした結果と理解されます。イザヤの言葉は辛らつです。容赦のない裁きの言葉を王や民に投げかけます。

私たちも誉められれば喜びますが、厳しい言葉からは逃げようとしています。聞きたくないからです。人間は、困難に陥った時、自分の知恵や力でなんとかしようとしています。なんとかなるとも思っています。イザヤの言葉を聞いた当時の南王国のアハズ王は、神に依り頼むことをせず同盟政策を取ろうとします。それは結

局のところ人間の知恵にすぎないのです。

何しろ古代の出来事なので、聖書がすべて歴史的事実であるというわけではありません。しかし、さまざまなことを想像させます。強い者が弱い者を支配する、女性や子どもは陵辱されたことでしょう。兵士になる可能性がある男性、若者は文字どおり殺されたり、強制労働につかされたりもしたことでしょう。そこに人権や良識はありません。殴る蹴るは当たり前、人を差別します。現代、あるいは近代においてなされたことは、古代にはもっと残虐になされたことだと思います。私たちは、そこから目を背けてはいけません。歴史に、現実にもっと敏感になり、謙虚になり、想像力をもたなければなりません。

### 沖縄のこと

私は1998年から2010年まで沖縄で生活しました。沖縄の方々は、今起こっている新たな基地建設に反対しています。かつて「琉球王国」と呼ばれていた独立国家がこの国の近代化の過程で日本に吸収されてしまいました。それでも沖縄に対する差別は厳然とあり、今でも残っているとさえいえるでしょう。そして、沖縄戦、すさまじい地上戦で沖縄住民の4分の1が亡くなったといわれています。私は沖縄で、沖縄の「家族」についてかかわる仕事をしていましたが、沖縄戦の犠牲者でない人はおられません。その犠牲のゆえに平和がおとずれるのではなく、米軍基地が強大化し、出撃基地、訓練基地とされ、施政権が奪われ、日本本土の憲法はもとより、すべての法律は適用されなくなりました。

そして米軍の新しい基地を沖縄に造るというのですから、反対せざるを得ないのです。沖縄は平和を求めているのです。沖縄に行かれる方は多いでしょうが、ぜひ沖縄戦の学びと広大な基地を見て欲しいと願っています。

### イザヤの言葉

やや同じことの繰り返しになりますが、イザヤは「悔いあらためるべきこと」「神の意志に従い行うこと」「神が約束されたことに信頼(信・信仰)を寄せること」を王や人々に求めました。しかし王や人々は不信仰のままです。歴史は、北王国はアッシリヤによって滅亡し、南王国もずいぶん経ってからですが、バビロンによってエルサレム神殿は破壊され人々は「捕囚」されます。徹底的な裁きです。

それにもかかわらず、神の教えに従う者は、神は人間を常に守り、解放の約束を守られるのです。

今日の聖書箇所は、もちろん、彼の生きた現実の場で語られたものです。理想かもしれませんが。剣を鋤に打ち直す、槍を鎌に打ち直す、そんなことはいつのことか。人間はより鋭い剣や槍を開発(核兵器をはじめとして)しているのではないか、より有効な戦術、戦法を学んでいるのではないか。

そのとおりかもしれません。

それでも、私は決して理想で終わらせてはならないと思っています。いや、人間の思いを越えて、これは神の約束なのです。戦争と平和、どちらを選ぶかと問われれば間違いなく平和を選び取りたいと願います。それが間違いのない答えだからです。

冒頭、保育園や家庭でのケンカの話をしました。振り上げたコブシはなかなか降ろせないものです。そもそもケンカにならないよう普段の信頼関係が大切です。争いになりそうになったらまず落ち着きましょう。誰かに中に入ってもらうのもいいかもしれません。徹底的に話し合しましょう。力には絶対頼らない決意

も必要です。そして、剣を鋤とし、槍を鎌に変えましょう。それが神が望んでおられることなのです。

2018年7月11日 今出川水曜チャペル・アワー「奨励」記録